「小児救急電話相談（＃８０００）に関する調査」リサーチプラン

1. 調査の背景と目的

平成１６年9月より、小児救急電話相談ダイヤル（＃８０００）を設置し、休日・夜間の急な子どものけがや病気に対する家族の判断を支援。専門知識を有する看護師が対応することで、保護者に安心感を与えるとともに、家庭の看護力の向上を目指している。本アンケートでは年々増加しているダイヤル利用者の属性や利用の背景、相談電話の浸透状況等を把握し、今後の支援の在り方の検討資料とする。

1. 調査仮説

子どもの年齢や、家庭の環境、保護者の年齢によって、「＃8000」の認知度や利用意向に差がある。

1. 調査対象

0歳～中学生以下の子どもを持つ親(保護者)　1,000人

1. 質問項目

　SC　５問

　本質問　17問

＜SC＞

1. 性別
2. 年齢
3. 住居（都道府県）
4. 15歳以下の子どもがいるか(MA)　0～3歳、４歳～未就学児、小学生、中学生、無
5. 子どもとは同居しているか

＜本質問＞全て回答者本人に対する質問

1. 未就学児との関係（父・母・祖父・祖母・叔父・叔母・その他）(SA)
2. 子どもの祖父母との同居もしくは近接住の有無(SA)（Q２の祖父母は対象外）
3. 配偶者（パートナー）はいるか(SA)
4. 普段の育児やこどもの病気についての主な相談相手(SA)
5. 【配偶者あり】夜間（8時以降）に配偶者は家にいることが多いか(SA)
6. ＃8000を知っているか(SA)
7. 【知っている】認知媒体(MA)
8. 【知っている】＃8000のこれまでの実際の相談の有無(SA)
9. 【知っている】＃8000にかけてつながらなかった経験の有無(SA)
10. 【利用あり】＃8000利用時の確認方法(MA)
11. 【利用あり】応対の満足度（表組）
12. 【利用あり】最近受けたアドバイス内容(覚えてるもの)（SA)
13. 【利用あり】前問での相談後実際の（受診）行動(SA)
14. 【利用なし】利用しない理由(MA)
15. 【知らなかった人】【利用なし】これまで夜間の急病時等の主な行動 (MA)
16. 【知らなかった人】知っていたら利用したか(SA)
17. 今後（も）利用したいと思うか(SA)
18. 検証方法

　性年代、子どもの年齢、Q２～５×Q６、１８